

県会議員 奥村のり子の
読者ニュース

2015年9月6日 第187号
—奥村のり子生活相談所—
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場1-11
☎ & FAX 073-427-7121
Eメール wjcpken@naxnet.or.jp



戦争法案の慎重審議
求める請願に
応じたのは共産党だけ



少しずつ、秋の気配が感じられるようになってきましたが、「戦争法反対」の運動は日本全土に広がりを見せています。世界のメディアも注目しています。

しかし、議会の中は世論の声に耳を傾けるといふ姿勢ではなく無視しているような状況に強く憤りを感じます。

和歌山県地方労働組合 総務委員会で付託され、評議会や平和・民主・革新の日本をめざす和歌山県民のいのちにかかわる内

県の会、安保条約をなくし、平和・民主主義・生活向上をめざす和歌山県民会議、憲法九条を守るわかやま県民の会のみなさんから「安全保障関連法案」は今国会で採決をせずに引き続き慎重な審議を求める請願が出されました。残念ながら紹介議員は日本共産党県議団3名だけで、当局課長の意見は「日本の安全保障にかかわる問題であり、十分な議論に基づき政府において適切に対応されるべきものと考えております。」という回答です。

容の法案に対し、地方自治に責任を持つている立場から国に対して何ものを言わないということ。は本来の地方自治の役割を果たしていないように思うと指摘をしました。「戦争する国」を許さない自治体をつくって行かなければとつくづく感じています。

(奥村のり子)

8・30迫力の赤旗号外

8月30日の全国行動について、国会周辺と大阪の大集会でリアルタイムで配布された迫力の「赤旗」特別号外が少ですが、党北部地区委員会にあります。また党中央のHPでもご覧になれます。

8・30行動は60年安保闘争後 最大規模に！

8月30日の「国会10万人・全国100万人大行動」は大成。国会周辺に12万人、全国1千箇所超で行動」と8月31日の日刊「赤旗」は大量の写真とともに報道。日曜版読者の方は今週号をご覧ください。共産党の山下芳生書記局長は「60年安保後、最大規模の闘争」と述べました。「60年安保」は同年5月、岸信介首相（現首相の祖父）がアメリカと新しい安保条約承認へ、国会に警備隊を導入し審議抜きで採決したのです。怒った国民は国会周辺で大規模な抗議行動の連続です。ハガチー事件などで米大統領の訪日も中止となり安保条約は衆院通過後1ヶ月で自然成立。岸内閣は条約発効後、国会周辺の混乱の責任をとって7月に総辞職しました。

当時20歳の筆者は10人程の職場で安保を学びました。地方では時おり集会やデモがある程度で、主体は国会周辺でした。また、反対勢力の中にニセ「左翼」暴力集団が紛れ込みその挑発で学生が国会に乱入、女子学生が警官隊の凶暴な弾圧で死亡する悲劇もありました。今回の8・30行動は、全国津々浦々で弾み、子供を含む若者から高齢者まで「戦争はイヤ」と心を一つにした行動だとテレビでも報道されるなど、大きな前進があると思います。さあ正念場、廃案めざし全力あげましょう。(編集室)

9月の週刊日誌—主なもの—

- 9月4日 市駅/吉宗像前宣伝、会議、坂口参議院予定候補あいさつ(回り)
- 5日 全県会議、医労連大会あいさつ
- 6日 自治会清掃、会議
- 7日 地域訪問
- 8日 会議
- 9日 事務所掃除、平和委員会学習会
- 10日 無料生活相談日

絵本のすすめ

「趣味はなんですか？」と聞かれ、「絵本の収集」と答えると、大抵の人は信じられない、清酒の収集のまじがいではないか、といいます。

いまから10年ほど前、書店でたまたま絵本のコーナーを通りかかったとき、実話をもとにした絵本『エリカ・奇跡のいのち』(ルース・バンダー・ジー)が目にとまり、くぎ付けになりました。

第二次世界大戦中、ユダヤ人を強制収容所にはこぶ汽車の窓から、ひとりの母親が生後間もない女の赤ちゃん(エリカ)を毛布にくるんで投げ出します。運よく村人に拾われ、成長したエリカは母のおもいを理解します。「お母さまは、じぶんは『死』に向かいながら、わたしを『生』に向かつて投げたのです」と。10分

党参議院議員
大門みきし



魅力に取りつかれ670冊収集、300冊東北の子ども達へ



国会での質問です

くらいの立ち読みでしたが、2時間の映画を観たような衝撃をうけました。

以来、絵本の魅力にとりつかれ、670冊まで集めたときに、東日本大震災が起こり、地元ボランティアの方をつうじて、避難所の子どもたちに300冊ほど選んでおくりました。その中の一冊、『おぼけのてんぷら』(せなけいこ)は、ウサギのうさこちゃんがおぼけをてんぷらにして食べるお話です。「こわい思い(地震や津波の記憶)なんか、てんぷらにして食べちゃえ」と、子どもたちに伝えたかった。

人間にとって大切なものが見失われ、心のうるおいが少くない世の中になってきました。もしかしたら、いま最も絵本を必要としているのは、子どもたち以上に大人たちかもしれません。